



林業福島

No. **554**

題字 福島県知事 佐藤雄平



10 2010

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■炭焼き巧みの業



当行の環境保全活動について

株式会社東邦銀行

当行は、CSR（企業の社会的責任）活動を積極的に進めており、特に昨今の環境問題を踏まえ、「環境保全活動」にも一層力を入れております。

いくつか具体例をあげますと、福島県内の自然環境保全活動を支援するため、お預け入れいただいている「東邦・エコ定期預金」の残高に応じて、福島県内の三つの環境保全団体（「清らかな湖、美しい猪苗代湖の水環境研究協議会」「自然首都・只見応援基金」「福島県自然公園清掃協議会」）へ寄付を行っております。また、単独国立公園となった尾瀬の自然環境を後世まで末永く守るため、「自然環境保護ファンド」を販売し、当行が受け取る信託報酬の一部について財団法人尾瀬保護財団へ寄付を行っております。

さらには、福島県の豊かな自然環境を守っていくことの大切さを伝えるため、地元の小学校を対象に「みどりの授業」を開催しております。この「みどりの授業」では、当行行員が講師となり、地球温暖化問題や自然環境保護の大切さなどをテーマに授業を行っております。

また、当行は県内では初めて、福島県が推進する「企業の森林づくり」制度を活用した、「とうほうの森づくり」活動を昨年から実施しております。この活動は「市民の皆さんが快適に散策や自然観察ができる親しみやすい森林をつくる」ことを目的に実施しているもので、須賀川市と喜多方市において、当行の役員・家族など延べ一、四〇〇人がボランティアでハナモモ・サクラ・ハナミズキ等の苗を植樹いたしております。

この「とうほうの森づくり」活動の結果、当行は福島県の二酸化炭素吸収量認証制度において県内で初めて認証団体となりました。これまで須賀川市（〇・四畝）、喜多方市（一・一畝）で植林活動を実施し、この活動内容が二酸化炭素吸収量（七・六三ト/年）として換算され、今年八月に福島県から認証を受けました。

当行では、引き続き森づくり活動などの「環境保全活動」を積極的に行っていくとともに、地元福島県の豊かな自然を後世に伝えていくために、貢献してまいります。



《も く じ》

とびら	山村を支える林道事業……………	7
当行の環境保全活動について	普及指導員通信……………	8
株式会社東邦銀行……………	木材市況・ふくしま東西南北……………	9
農家レストランを訪ねて……………	みどりの少年団コーナー……………	10
ふくしま森林文化企画展を開催しました…	木連だより……………	11
ごちそう ふくしま絆づくり運動について…	森林管理署メモ……………	12
森の名手名人 吉田さんと武藤さんが選定される…	はなしのひろば……………	13



旺盛ななめこの発生



くつろげる店内



なめこのフリットの野菜サラダ



なめこの味噌ピッツア



武藤 一夫 さん

農家レストランを訪ねて

東和季の子工房

二本松市（旧東和町）の農家レストラン東和季の子工房に武藤一夫さんを訪ねた。東和季の子工房は、道の駅「ふくしま東和」から南に三キロほど、阿武隈山地特有の小高い丘陵の集落の中にあつた。

武藤さんは、空調施設によるなめこの周年栽培を主体にした経営を行っている。

昭和五〇年代から養蚕主体の経営からなめこ栽培を主体にした経営に切り替え、栽培技術の向上と経営改善に取り組み、生産量の増大を図ってきた。

長年の努力が認められ、平成一一年には福島県農業賞、平成二二年には福島県農業賞特別功労賞を受賞している。

現在は一二十万個のビン栽培により、年間五〇〜六〇トを生産している。農家レストラン東和季の子工房は、

田舎にこんな店があつてもいいかなという武藤さんの思いと、グリーンツーリズムの研修を受けていた奥さんの思いが重なってオープンした。

シェフは、東京で修業をしていた息子さんで、自慢のなめこ、自家製野菜をはじめ地元産の食材を活かした創作イタリア料理で、オープンしてから今年で五年目となる。

養蚕部屋を改装したというレストランは、低めの天井でゆったりとした落ち着いた雰囲気。前のデッキスペースからは、目の前には柵田が、遠くに羽山、移ヶ岳が見える絶好のロケーションである。

この日のランチメニューは、なめこのフリットが入った野菜サラダ、自家製かぼちやのスープ、三種類のきのこのパスタ、手作りプリンにコーヒー。それに加えてなめこの味

噌ピッツアをいただいた。なめこのフリットは、見た目もかわいらしく、揚げたてでおいしく味わる。なめこの味噌ピッツアは、パリパリのピザ生地と味噌となめこが不思議に調和している。

天然酵母、国産小麦使用のこだわりのパンを作るのは、奥さん。自家製イチジクのパンなどが好評で、道の駅でも販売している。

レストランは、クチコミなどで評判を呼び、県外から訪れる人もいて、リピーターも多いとのこと。武藤さんも地元のおいしいものを食べてもらいたいと、訪れる人との交流を楽しんでいる。視察も多いそうだ。

これからも、あえてここでレストランをやるといふ意味にこだわって、農家だからこそできることを大切にして、夢をもってやっていきたいと意欲的である。

武藤さんは、地域のリーダーであり、NPO法人ゆうきの里東和ふるさとづくり協議会の副理事長を務め、特産物加工、体験・交流・定住促進など幅広く活動している。

【東和季の子工房】

二本松市太田字一本松七

TEL〇二四三―四六一―二二六六

定休日 月曜日

完全予約制 二日前までに

ふくしま森林文化企画展を

開催しました

県森林計画課



テープカット



知事あいさつ



記念トーク



オープニングトーク

福島県は、森林を県民共有の財産として守り育て、次世代に引き継ぐため、平成一八年度から森林環境税を導入し、「県民一人ひとりが参画する新たな森林づくり」に取り組んでいます。

そのシンボル事業として、平成二二年六月二六日（土）から八月二二日（日）の期間に「森林文化」をテーマに県内の五つの文化施設が連携し、民俗学、生態学、考古学など様々な

観点から森林と人との関わりについて見つめ直し、新たな森林と人との共生について考える「ふくしま森林文化企画展」を開催しました。

○五館連携の取組み

・オープニングイベントの開催

企画展の開催初日の六月二六日には、オープニングイベントとしてオープニングセレモニー、オープニングトーク及び記念トークを開催しました。



歴史資料館でのパネル展示



フォレストパークでのパネル展示



まほろん展示



きこり体験

オープニングセレモニーでは、福島県知事、福島県議会議長、会津若松市長、企画展開催施設五館の代表者及び会津若松市立城北小学校児童によりテープカットを行いました。

テープカットに引き続き開催したオープニングトークでは、企画展開催施設五館の代表者が「森林から未来へ」をテーマに森林文化企画展から発信する森林文化の紹介などを行いました。

記念トークでは、県しゃくなげ大使でエッセイストの安藤和津さんをお迎えし「明日を素敵に生きるには」と題して講演を行いました。

・森林環境税を活用した

森林環境学習成果の展示

森林環境税を活用し県内の小中学校で取り組んでいる森林環境学習の

成果をパネル等で展示し県民の皆様へ紹介しました。

五館で一四〇枚のパネルを展示しました。

○各館の取組み

・まほろん

原始・古代の人々が生きていくために森を伐り拓き、道具を造り、森の恵みを食料としてきた姿を伝えるために、旧石器時代から平安時代までの森林文化に関係のある道具の展示や「原始・古代の森の資源の利用」と題した山田昌久氏（首都大学東京教授）の講演及びまほろんの森を活用した古代のきこり体験などを行いました。

・県立博物館

森林と人とのように関わってきたか、そしてどのような文化がそ



いろいろ体験



鶴ヶ城の樹木観察会



歴史資料館展示



森を未来へ発信フォーラム



アクアマリン展示



移動水族館



ツルを使って道具作り



山の木を使って親子で遊べる遊具作り

ここに生成してきたのかを知っていた
 だくために、古代から現代までの工
 芸品や道具の展示、「会津の山を語
 りあかそう」などのシンポジウム及
 び鶴ヶ城での樹木観察会を行いまし
 た。

・福島県歴史資料館

森林資源の恩恵を現代に伝えてく
 れたふくしま人の苦労を歴史から学
 び、豊かな森林環境を未来に伝える
 ことの大切さを知るため、森林文化
 の変遷を知る古文書や歴史資料を展
 示するとともに、新妻香織氏（フー

太郎の森基金代表）などによる「森
 を未来へ」発信フォーラムを開催し
 ました。

・アクアマリンふくしま

（アクアマリンうおのぞき）

森、川、海のつながりとそれぞれ
 の役割と現状、そしてそこに暮らす
 生き物について考えるためのパネル
 の展示や木炭を活用した塩作り体験
 などを行いました。

また、企画展の開催期間中は各館
 をまわり移動水族館を開催しました。

・フォレストパークあだたら

体験を通じて森林のすばらしさや
 楽しさを来場者に知っていただくた
 めに、昆虫ウォッチングや炭焼き体
 験などを行いました。

○その他の取組み

・図録の作成とスタンプラリーの開催

企画展を県民の皆様へ紹介すると
 ともに福島県内にある森林文化を県
 民の皆様を知っていただくために企
 画展の図録を作成しました。

また、企画展開催期間中にスタンプ
 ラリーを実施し、三館来場者へ

は、県産材で製作した木製のキーホ
 ルダーを、五館来場者へは、県産間
 伐材で製作した木製プランターキッ
 トのプレゼントも行いました。

○結びに

今回の企画展は県内文化施設五館
 が連携し森林文化をテーマに展示、
 講演及び体験を行うという初めての
 試みではありましたが、開催期間中
 に約一万人の来場者を迎え無事終
 了することができました。これらの
 取組みは、県民の皆様の森林づくり
 意識の醸成を図り、これからの森林
 と人との新たな関係の構築に寄与す
 るとともに、皆様の心に残る催しに
 なったものと考えております。

・図録の作成



図録（抜粋）

「ごちそうふくしま絆づくり運動」について

県農林企画課



■はじめに

「ごちそう ふくしま絆づくり運動」は、平成二二年三月に策定された県農林水産業振興計画「いきいきふくしま農林水産業振興プラン（計画期間：平成二二年度～平成二六年度）」の目標を達成するため、農林水産業と農山漁村に対する県民等の理解を基礎に、関係機関・団体等が連携を強化しながら、農林水産業と食、緑、環境、くらしをつなぎ、みんなで支え合うことを目指す取り組みです。

■「絆づくり運動」の展開

森林・林業については、木材の安定供給や雇用の創出、地球温暖化対策の推進など様々な期待が寄せられています。その一方、採算が合わないなどの理由から、間伐が進まず、森林のもつ多面的機能の発揮への支障が懸念されており、

森林を適切に整備・保全し、緑豊かなふくしまを未来へ引き継いでいくためには、県全体で支えていく「絆づくり」の取組みが重要です。

このため、今年度から消費者や農

林漁業者の皆さんを始め、商工や流通など、様々な分野の方々の参画を得て、「ごちそう ふくしま絆づくり運動」県推進本部を設置して、「地産地消」や「地域産業六次化を含む生産振興」「交流」等を推進する「絆づくり運動」を全県的に展開していきます。

一〇月一〇日、一日に開催した「ごちそう ふくしま満喫フェア二〇一〇」において、「絆づくり運動」の趣旨をわかりやすく具現化し、広く取り組んでもらうため、「ごちそう ふくしま絆づくり宣言」を制定しました。

今後は、本宣言を浸透させ、「絆づくり運動」に多くの方々に参加し、広く展開していけるよう、森林・林業関係の皆様におかれましては、消費者が地域の森林づくりに参加できる機会をつくるなど、森林所有者との交流を進め、森林整備や地域材を使用する意義の理解促進に努めて頂きますようご支援・ご協力をお願いします。



ごちそう ふくしま絆づくり宣言の発表

■「ごちそう ふくしま絆づくり宣言」

わたしたちの生命を育み豊かな恵みを与えてくれる「ふるさと」をいきいきと輝かせ、次の世代にしっかりと引き継いでいくためには、農林水産業と食、緑、環境、暮らしをつなぎ、みんなで支え合う「ごちそう ふくしま絆づくり運動」に多くの方々に参加し、農林水産業や農山漁村に対する理解を深めていくことが大切です。

ふくしまの農林水産業が将来にわたって発展していくことを目指し、わたしたち一人ひとりが主役となつてこの取組みを進めることを、ここに宣言します。

わたしたちは、

○ 農林水産業や農山漁村の大切さ



ごちそう ふくしま絆づくり宣言

を学びます。

○ 「ふるさとの恵み」に感謝し、ふくしまの農林水産物をいただきます。

○ 安全・安心で顔の見える農林水産物の生産・加工・販売に取り組めます。

○ 様々な交流を通して、お互いの理解を深めます。

○ 一人ひとりの活動を通して、いきいきとしたふくしまを創り、次の世代にしっかりと引き継いでいきます。

なお、宣言は福島県のホームページに掲載しております。また、農林漁業者の皆さんと消費者等の皆さんとの交流を進めるため「交流イベントカレンダー」も掲載しておりますので併せてご覧ください。

【「ごちそう ふくしま絆づくり」で検索】

森の名手・名人

吉田さんと武藤さんが選定される

国土緑化推進機構は、「もりのくに・にっぽん運動」の中心となる取組みとして、平成一四年度から、森林と人間との係わりの中で育まれてきた、優れた技を持ち、他の模範となる達人を「森の名手・名人」に選定しています。

今年度は、本県から加工部門で吉田敏八さん(田村市)と、武藤叡太郎さん(喜多方市)の二名が選ばれました。なお、本県からはこれまでに二〇名が選定されています。

《加工部門(竹炭工芸・竹酢液生産)》

吉田 敏八さん

田村市都路町



田村市都路町(旧田村郡都路村)は、昔から炭焼きが盛んで冬場はこの家でも炭焼きをしていた。

吉田さんは、昭和六二年に竹炭生産を始め、翌昭和六三年に竹炭工芸「都美」を設立した。

当時、まだ、知られていなかった竹炭を専門に生産し、工芸品づくりや竹酢液生産に取組み、さまざまなアイデアで商品を生み出し、竹炭を身近なものとして定着させてきた。

高品質の竹炭にこだわり、竹切り、炭焼き、工芸品作りまで、自らの手ですべて行うなど、優れた知識と技術を有している。

また、都路元気な郷づくり事業実行委員会会長として、竹灯一万本による「都路伝説」都路灯まつりを開催するなど、地域づくりに力を注いでいる。

さらに、学生や一般の方々を対象にした体験製作などを通じ、後継者の育成にも尽力している。

《加工部門(根曲がり竹細工)》

武藤 叡太郎さん

喜多方市



根曲がり竹は、ジダケとも呼ばれ、標高が高く雪深い会津に多く生育している。生活に欠かせないザルやかご等の材料として利用され、農閑期の冬仕事として貴重な収入源でもあった。

武藤さんが竹細工を始めた昭和二〇年代後半から三〇年代が最盛期であったが、その後プラスチック製品に取って代わられ、昭和五〇年代頃から需要が少なくなった。

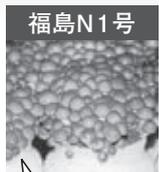
平成四年、地区の有志とともに

「雄国根曲がり竹保存会」を設立し、事務局を担い、技術の伝承に努め、PRのための実演・販売を行うなど、精力的に活動している。武藤さんの竹細工の技術・技能は卓越しており、保存会を代表するものである。

グリーンツーリズムや教育旅行を受け入れ、体験指導を行っているほか、地元の小中学生や県内外の一般の方々、地区の若者等を対象に竹細工教室や講習会を開催し、後継者の育成に努めている。

きのこで地域を元気に (財)福島県きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)



安定多収量



大型・滑り少

●原木栽培用ナメコ(登録品種)



コナラ原木で安定・多収量
食物繊維、ペクチン様物質豊富

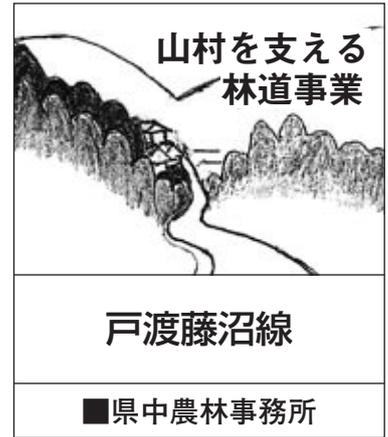


○その他各種種菌

- 菌床
 - ・シイタケ
 - ・ハタケシメジ
 - ・ムラサキシメジ等

- マイタケホダ木
- 栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926
E-mail: f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL: http://www.f-kinoko.org



■ はじめに

当事務所は、福島県の中央部、郡山市、須賀川市、田村市、田村郡、石川郡、岩瀬郡の三市、六町、三村を管内に持ち、区域面積は約二四万一千鈔で、福島県の約一七鈔を占めます。管内の民有林面積は約九万五千鈔で、管内森林面積の六七鈔を占めています。管内の民有林林道は、平成二〇年度現在で三四四路線、総延長六四五、六六九鈔を整備しており、路網密度は六・八二鈔/鈔と県平均の七・二二鈔/鈔を少し下回っている状況です。

当事務所の県営林道は、現在郡山市と猪苗代町を結ぶ「中山都沢線」と、今回ご紹介する「戸渡藤沼線」の二路線が整備中です。

■ 路線の概要

「戸渡藤沼線」は、須賀川市長沼字諏訪入地内を起点とし、同市勢至堂字屋敷地内を終点とする連絡線形で延長一四・三キロ、全幅員五・〇メートルの一級林道です。利用区域面積は

森林管理道整備事業 戸渡藤沼線



隣接する藤沼湖自然公園



利用区域内森林整備の状況



山開き時の登山者



固化剤を利用した改良



支障木をチップ化し利用した吹付

六七二鈔（うち国有林が二二五〇鈔）で、人工林が四五三鈔、天然林が一九九鈔となっており、今後、間伐等の森林整備の推進が期待されます。当該路線に隣接する藤沼湖自然公園にはキャンプ場や温泉施設、パークゴルフ場などが整備されており、県内外から年間一二十万人の入込みが

あり。また、毎年春には高土山の山開きが開催され、当該路線が登山道の一部として利用されるなど、林道の多面的効果が発揮されているところ。当該路線は平成二年度から工事に着手し、起点終点側の両工区より開設工事を実施し平成二一年度までに約一一キロの開設を終え、平成二六年度の完成を目指しており、約八〇鈔の事業進捗となっています。

■ 路線の整備状況

近年の公共事業は、低コスト工法の導入、建設発生材のリサイクル、維持管理費の節減などコスト縮減が求められております。当該路線も工法を進めています。工事区間が尾根筋にかかり地形が急峻となり、開設に伴う残土処分地を沿線に確保することが困難になっています。

この残土を路線外へ搬出すると多額の経費がかかることが想定される

ため、残工事区間の構造物や線形の見直しなどにより切り盛り土工バランスを考慮した総合的な流用計画を策定しました。このことにより残土についてはそのほとんどを盛土として有効利用できる見通しとなりました。今年度も平成二〇年度開設工事でストックしておいた発生残土を、セメント系固化剤を利用した改良を加えたうえで六、三〇〇立方メートルを盛土材に有効利用しています。

また、開設区間で生じる支障木を利用した吹付工法も取り入れ、木材のさらなる利用を行っています。

■ おわりに

戸渡藤沼線の工事に当たっては、開設コストを低く抑えようと、森林整備作業効率の向上や木材搬出経費の縮減、登山客等一般利用者の増加などの開設効果が最大限に発揮され、地域住民にとって使い勝手の良い林道になるように事業を進めていきたいと考えています。

— 普及指導員通信 —

学校林における森林環境学習(間伐体験)

■ 県南農林事務所

矢祭町立下関河内小学校が取り組んでいる森林環境学習について紹介します。同校は年々児童数が減少し、今年度時点で全校児童30名と小規模校となっていますが、今年で開校136年を迎える長い歴史を持つ学校です。

平成20年に学校から森林環境学習の一環で間伐体験学習を行うため指導を願いたい旨連絡があり、当所で学校林を下見したところ、8～10齢級のスギ林と広葉樹林が合わせておよそ4haあり、これまでに手入れが行われた形跡は見受けられず、林業体験フィールドとしては申し分ありません。

対象は3～6年生のおよそ20名。平成20年度に1回、21年度からは春と秋の年2回行ってきており、毎回依頼を受けて当所職員が活動の支援をしてきています。作業前には、間伐の必要性や作業の安全性確保、鋸の使用方法を説明して、いざ作業に取り掛かります。児童達と選木したスギの立木を手鋸で受け口、追い口を切り込んでいきます。手鋸での伐倒は児童達には大分応える様

ですが、立木が倒れ始めると興奮と歓喜の声が林内に木霊します。チェーンソーもサポートしながら操作させてみると、けたたましい音と振動に緊張しながらも楽しんでいるのがよく伝わってきました。また、間伐した丸太を利用して林内に階段やベンチ等を作製すると、伐られた木が利用されて違う姿に変わること到大変関心を示していました。

初めて実施したのは2年前。当時4年生だった児童も今年度は6年生に進級し身長が伸びていることに驚きましたが、それ以上に驚かされたのは回数を重ねてくると作業の方法等に手慣れた感があるところです。何度も反復することにより身についていくものだと実感させられました。

学校では今後も学校林活動を継続する意向があるため、今後はどの様に学校林を整備していくかなど、学校の相談を受けながら活動の支援を行っていききたいと思っています。（林業普及指導員 菊池 徹）



熱心に説明を聞く児童たち



一生けん命に作業をする児童たち

森林環境ゼミナール in 大洲の開催

■ 相双農林事務所

森林環境基金事業の取組みも今年度で5年目を迎え、ここ相馬地方でも「県民一人一人が参画する新たな森林づくり」が活発に行われているところです。

森林環境ゼミナールは、各流域単位で開催されていますが、今年度の磐城流域での実施状況についてご紹介したいと思います。

10月の秋晴れのもと、相馬地方の代表的な観光地の一つ、松川浦周辺を会場として開催し、午前中は、大洲公園内での植樹、育樹作業を、午後は、松川浦スポーツセンターでの講演会を実施し、相馬地方から応募のあった県民や相馬市内の大野小緑の少年団員ら80名の参加がありました。

大洲公園では、農林事務所の林業普及指導員から、海岸松林の働きや松くい虫の被害メカニズム、林業研究センターで開発された抵抗性クロマツについての説明後、参加者らによる抵抗性クロマツの植栽やクロマツ林の枝

おろし作業が行われました。

午後は、「日本の森が危ないって本当?! ～森林と生活との関わりについて知ろう」という演題で、NPO法人フー太郎の森基金理事長の新妻香織氏による講演が行われ、松川浦周辺の森の成り立ちや現在の森林の現況、フー太郎の森基金の活動についてお話をいただきました。フー太郎の森基金は、エチオピアで10年以上前から植林活動を行っている団体で、お話は、エチオピアと日本の気候や風土、考え方の違いに試行錯誤を繰り返しながら活動を続けている体験談を通して森林整備の必要性を訴える内容で、参加者には日本の森林の豊かさを改めて認識するきっかけになったのではないかと思います。

当事務所では、今後とも森林環境保全のための県民参加の森林づくりを推進していくため、活動を続けていくこととしております。（林業普及指導員 菅野 陽美）



森林づくりのお話



植樹活動（抵抗性クロマツの植樹）



木材業景況調査結果 (平成22年9月分)

全国木材協同組合連合会
 (社)全国木材組合連合会

〔製造部門〕 モニター数116 回答数75 回収率65%

当月の状況

販売量	増加51% (38)	変わらず38% (29)	減少11% (8)
仕入量	増加40% (30)	変わらず45% (34)	減少15% (11)
販売価格	上昇12% (9)	変わらず87% (65)	下降1% (1)
仕入価格	上昇33% (25)	変わらず60% (45)	下降7% (5)

来月の見通し

販売量	増加29% (22)	変わらず59% (44)	減少12% (9)
仕入量	増加32% (24)	変わらず55% (41)	減少13% (10)
販売価格	上昇7% (5)	変わらず88% (66)	下降5% (4)
仕入価格	上昇20% (15)	変わらず71% (53)	下降9% (7)

3ヵ月後相場予想	強含み	保ち合い	弱含み
米材	14% (4)	65% (18)	21% (6)
南洋材	17% (4)	79% (18)	4% (1)
北洋材	17% (4)	71% (17)	12% (3)
国産材	27% (17)	65% (40)	8% (5)

プレカットの動向

受注後、加工までの待ち時間	1ヵ月以内	1ヵ月	1ヵ月以上
	45% (5)	37% (4)	18% (2)

九月は、流通・製造部門とも販売量、仕入量は増加した。また、販売価格については、流通・製造部門とも変わらなかった。仕入価格については、流通部門では変わらず、製造部門では上昇した。ほぼ前回調査の予想のとおりの結果であった。主に、季節性を反映した結果と思われる。



【田島の「こづゆ」と

会津流おもてなしの心「こづゆ」。今年のお盆は、妻と二人で田島の実家で迎えました。そこで「こづゆ」づくりにチャレンジしてみました。干し貝柱でだしをとり、里芋、にんじん、糸こんにゃくなど具だくさんでつくり、裏の土蔵から探し出した小さな朱塗りの皿(会津塗りに、田島流とも猪苗代流とも言いがたい「こづゆ」で、会津流のもてなしを試みました。その味は、好評でした。「こづゆ」は、一見同じように見えながらも地域により微妙に異なる多彩な具が魅力のひとつでもあります。ここで、会津地方の「こづゆ」について調べてみましたので、紹介します。



ためしてガッテン 「こづゆ」づくり

会津農林事務所森林林業部
林業課長

星 博一

呼び、つと豆腐(木綿豆腐をワラで締めたもの)が入る。

【猪苗代の「こづゆ」

「つゆ」「つよ」「ざく煮」と呼び、根曲がり竹が入る。

【喜多方の「こづゆ」

「煮物」「ざく煮」などと呼ばれ、棒たら(干したら)、麩(白・赤)が入る。

【会津若松の「こづゆ」

「ざくざく」「ざく煮」と呼ばれ、干し椎茸、ぎんなんが入る。かざりに絹さや、ほうれん草で色合いを整える家もある。

会津地域では、それぞれの家庭に伝わる味として、冠婚葬祭に欠かせない一品ですが、只見や檜枝岐では見られません。

会津の味「こづゆ」は、親から子、子から孫へと、それぞれの家庭で、味と会津塗りの朱の器が受け継がれてきました。これからは継承されることを願うと同時に、我が家の継承が最大の課題でもあります。「さてどうしたものか、ため息・・・」



丸太小屋完成

思い出がいっぱい

大久田小学校 みどりの少年団 30年の活動に 終止符

みどりの少年団コーナー
No.179



学校林間伐作業



校歌のオブジェ完成

「大久田小学校みどりの少年団」は、今年度で活動に終止符をうつこととなりました。一抹の寂しさもありますが、三〇年という時間の積み重ねを考えた時、これまでの歴史と活動実績の重み、そして、お世話になった多くの皆様方の温かさを感じずにはいられません。土地柄、地域ぐるみでの会合がありますが、その席で本団出身の先輩方が目を輝かせ、当時の活動の様子や各種大会に参加したこと等の話をしてくださいます。当時の学校林活動の大変さ、初の全国大会出場時のエピソード、植林や植樹の喜び……。そんな話を聞いていますと、次のようなことを考えてしまいます。「今ここで活動している子ども達も、二〇年後三〇年後、この先輩方と同じように目を輝かせ、誇らしげに今の活動を熱く語るることができるだろうか」と。「オオムラサキはきれいだったね」とか「ヤマメを手ですくって放流したね」とか「間伐材で丸太小屋を建てたりストラップを作ったりしたね」とか。そんな素敵な未来を思い描きながら、現団員全二六名の、これまでの活動の思いを綴らせていただきます。

○丸太小屋づくりの思い出

・大変だったけど、完成した時には、

感動した(文慎) ・一番思い出に残った活動だった。いろいろな活動をやってきてよかった(菜々子) ・できた時には「やった」と叫んでしまった。ずっと忘れずに覚えておきたい(隆司) ・間伐材を運び出す作業が大変だった(優輝) ・協力して木を運んだり、木を押さえたりしてがんばった。完成した時は、すごくうれしかった(加菜) ・時間がかかったけど、無事に完成したのでよかった(秀亮) ・大きくて時間をかけたので、完成した時とてもうれしかった(透瑠) ・協力してできた楽しい活動だった。団結力も強くなったと思う(英里奈) ・たくさんの道具と材料を使ってできたので一番の思い出になった(真由)

○クリーン活動の思い出

・活動をする度にゴミが少なくなり活動のことがみんなに伝わっているんだな、と思った。ゴミがもつと減るよう呼びかけた(知徳) ・今までたくさんゴミを拾ってきた。地域のためになってよかった(悟資) ・山菜採りの時に拾ったゴミがとても重かった(稔) ・ゴミをいっぱい拾って楽しかった(紘輝) ・拾う前はそんなにないと思っただけど、やってみるとゴミが多くてびっくりした(莉光菜)

○間伐材を活用したもののづくりの思い出
・校歌のオブジェを作ることができた。心の中にしまっておきたい活動になった(法子) ・オブジェづくりは、たくさんのパーツを切るのが大変だった(敬三) ・最後の掲示板づくりが心に残った(友里) ・材料の間伐材を輪切りにするのが多くて大変だった(大樹) ・間伐の目的も分かったし、木を切るのが楽しかった(卓也) ・写真立ての切れ込みを入れるのが難しかった(未優)

○ヤマメ放流・オオムラサキ飼育の思い出

・手ですくってみると、とても元気がよくてびっくりした(愛莉) ・手で触ると死んじゃうって聞いて、手を水で冷やしてから放流した(文楓) ・思ったより小さかったので、大きくなってほしいと思いつつながら放流した(彩花)
・オオムラサキの成虫を見ることができとてもうれしかった(歩美) ・一度いなくなった幼虫を見つけ、それが無事オオムラサキになってよかった(友結)

○各大会への参加の思い出

・全てが楽しい活動だった。実績発表大会は、とても緊張したが、良い経験になった(瑠也)
大久田小学校みどりの少年団は、地域の皆様に温かく見守られ、活動においては先駆的な役割を果たしてきたものと自負しております。また、このような活動を続けることができたのも、林業関係者の皆様、関係各位の皆様との並々ならぬご支援があったからこそと感謝申し上げます。この場をおかりしまして、心より御礼申し上げます。

木連だより

第35回福島県児童・生徒
木工工作コンクールの
入賞作品決まる



●**県知事賞(低学年の部)「流木恐竜」**
(新井教授のコメント)
小幡 柁 貴君の「流木恐竜」は、流木の力強さを恐竜の胴体や脚に生かしながら、口の中の細かな牙まで流木で繊細に形作った作品です。その力強さと繊細さを兼ね備えている点で最優秀賞にふさわしい作品



●**県知事賞(高学年の部)「オクトパス」**
(新井教授のコメント)
前澤 伸 賢君の「オクトパス」は、タコの脚を木の根で作り、その動きの感じが見事でした。更に吸盤まで作っているところがその力強さを増



●**県木連会長賞「三輪車」**
(新井教授のコメント)
桑名 愛 結さんの「三輪車」は小さな作品ですが、その小ささが持っている愛らしさと木の温かい素材感がちようど良く、たいへん目を引きました。更にバックミラーまでアクセントになっている点が評価に繋がりました。
なお、一〇月二日(土)、ビックパレットでの環境エネルギーフェアの会場で「表彰式」が行われました。



と感じました。

していました。木の根をタコに見立てただけでなく、生き生きと動く感じまで表した、新鮮で素晴らしい作品になりました。

桑名愛結さんの「三輪車」は小さな作品ですが、その小ささが持っている愛らしさと木の温かい素材感がちようど良く、たいへん目を引きました。更にバックミラーまでアクセントになっている点が評価に繋がりました。

【最優秀賞】		(敬称略)		
福島県知事賞	1部(低学年の部) 流木恐竜	いわき市立平第一小学校	3年	小幡 柁 貴
福島県知事賞	2部(高学年の部) オクトパス	いわき市立勿来第一小学校	6年	前澤 伸 賢
【優秀賞】				
福島県教育委員会教育長賞	1部 いつまでもこの海で	いわき市立郷ヶ丘小学校	3年	園 部 皆 斗
福島県教育委員会教育長賞	2部 想像紙しばい	いわき市立夏井小学校	5年	鈴木 桃 香
関東森林管理局長賞	バイク	郡山市立明健小学校	4年	柳 沼 亮
福島民報社長賞	花火の思い出	いわき市立小名浜東小学校	4年	鈴木 嘉英人
勲福島県林業会館理事長賞	はりもぐら	福島市立野田小学校	3年	菅 野 滉 大
福島県木材協同組合連合会長賞	三輪車	郡山市立日和田小学校	4年	桑 名 愛 結
NHK 福島放送局長賞	お花たちのパラダイス	いわき市立中央台南小学校	5年	小 野 夏 海
ラジオ福島社長賞	シーラカンズ	いわき市立小名浜西小学校	5年	三 瓶 未 久
福島テレビ社長賞	さかなつり	いわき市立平第五小学校	1年	小 松 渚 紗
福島県木材青壮年協会会長賞	1部 トンボ森	郡山市立高倉小学校	3年	鈴木 夏 帆
福島県木材青壮年協会会長賞	2部 らん	いわき市立平第一小学校	6年	田 村 英 之



団体のページ

森林管理署メト

森林環境教育への
取組

森林の有する機能には、「水源かん養機能」、「山地災害防止機能」、「生活環境保全機能」、「保健文化機能」及び「木材等生産機能」があり、ほとんどの森林は、これらの機能を重複して有しています。

また、森林は、これらの機能の内、重視すべき機能に応じて、「水土保全林」、「森林と人との共生林」及び「資源の循環林」の三つのいずれかに区分されています。

奥久慈森林計画区の国有林は、久慈川を境として、大きく八溝山系と阿武隈山系に分かれますが、ほとんどの森林が「水土保全林（約八六割）」に区分され、山系は違っても、水源かん養機能への期待が高い地域という点で共通しています。

奥久慈森林計画区は、人工林率も高く、優良人工林地帯として古くか



棚倉森林管理署

ら林業・林産業が盛んな地域です。

このような歴史的背景もあり、棚倉森林管理署では、毎年、東白川郡四町村と協力し、国有林の伐採跡地を利用し、地域住民の方々や地元小学生等と一緒に植樹祭と森林教室を

実施して、森林の果たす役割や植樹の大切さを理解して頂き、地域の美しい森林を次世代の子どもたちに引き継ぐ取組を行っています。

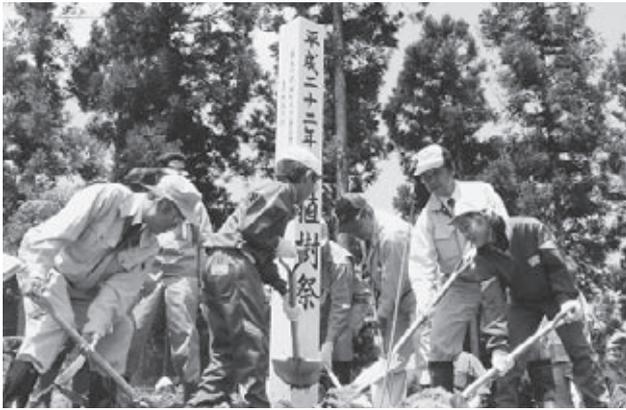
また、地域の子も達が実際に緑に触れ、遊び、学ぶフィールドとして、国有林内に地方公共団体と協定を締結し、「遊々の森」を設定し体験活動等の場を提供しています。

平成二二年度は埴町と協定を結び、八塚地区の住民等が活動実施者となり、森林教室や林業体験を通じて、「郷土愛を育み、森林の大切さを子どもたちに教えていきたい」という観点から小学校の裏山を「八塚

希望の森」と命名し、二二年春に植樹祭を実施しました。

さらに、地域の小学校や子ども会等からの要請を受けて、森林内で行う観察・レクリエーション等を通し、森林の働き等を学んでもらう森林教室等も実施し、普及啓蒙に努めます。

特に小学校低学年生を対象とした森林教室には、引率の先生のほかに保護者の方々も参加する場面もあり、親子で楽しみながら学ぶ有意義な取組となっています。



地域と連携した植樹祭



「矢塚希望の森」の植樹祭



地域の子も達への森林教室



都市にも限界集落が

九月から一〇月にかけて真夏日が減り、熱中症騒ぎは収まった様である。暑さ寒さも彼岸までといわれるが、異常な今年の夏が終り、暦通りの秋に戻る気配を肌で感じている。この季節は爽やかな秋だが、祭りの季節でもある。写真を撮りはじめて感じるのは、今日も何処かで賑やかな祭りがあり、紅葉も加えカメラマンには正に好季到来である事だ。

ところで、町内会長として間も無く満六年になる。町内会長は地区の纏め役で責任も重いため、自分から会長になりたいと思っっている人は少ない。私の様に単身赴任で、地域の方達にお世話になったお礼の思いや、逃げ切れず引き受けた「仁も多」と思われる。会長は会の運営に当たり、大小の差はあっても苦勞が多いと思っっている。私は若干の役員報酬を受けているが、妻や家族にまで心勞や負担を掛け申し訳なく思っっている。会長には連合会等の当て職があり、会務優先のため趣味や私ことは後回しになる。

近年、全国各地で大災害や事故が多発し、その救助や復旧活動に町内会活動が大きな役割を果たしている事例が発表されているが、核家族化が進むにつれ家族優先の意識が高まり、町内会活動も弱体化しつつある。この様な現状から役員を引き受け手が無いため、役員の班持ち回りの町内会が増え、役職当番が来ると町内会を脱退する例も見られる。

また、会費納入や町内会事業への参加を嫌い、未加入者は増加傾向にあり、昨今の社会情勢から会費値上げも困難で、会運営は資金面からも大きな悩みとなっている。この様な現状の中で、各種募金が困難な状況から会負担のケースが目立つ様になった。団体上部も実情を知ってか知らずか、町内会依存の体質に変わってきている。会長は募金活動の理事も兼務しており、苦勞する会長の姿を遠くから眺めて役員を敬遠するのもも知れない。

地域の安全と生命や財産を守るには自主防災組織等の強化と活動の活性化が望まれる。町内会役員は高齢化し、村だけでなく都市にも限界集落の影が押し寄せている。佐藤微風

表紙の横顔



炭焼き巧みの業

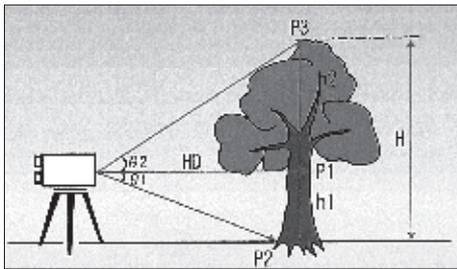
第6回ふくしま森林・林業写真コンクールで入選された、長谷川錦治さん(いわき市)の作品。

編集

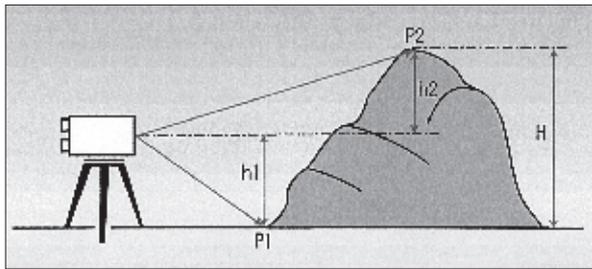
- 福 島 県 内 四 森 林 管 理 署
 - 福 島 県 林 業 協 会
 - 福 島 県 森 林 組 合 連 合 会
 - 福 島 県 木 材 協 同 組 合 連 合 会
 - 福 島 県 緑 化 推 進 委 員 会
 - 福 島 県 農 林 種 苗 農 業 協 同 組 合
 - 福 島 県 林 業 公 社
 - 森 林 総 合 研 究 所 福 島 水 源 林 整 備 事 務 所
 - 福 島 県 林 業 協 会
 - (福 島 市 中 町 五 番 一 八 号 県 林 業 会 館 内)
- 発 行 人 陽 光 社 印 刷 株 式 会 社
- 発 行 渡 辺 卓 治
- (定価 六三円)

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合



2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測 距 範 囲	反射板 無30m 有300m
測 距 精 度	± 5 mm
傾斜センサー分析能	0.1
測 定 方 法	高さ・水平距離・斜距離
寸 法	W64・H64・D180
重 量	650 g
付 属 品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

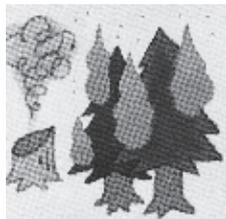
レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



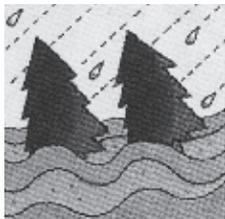
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



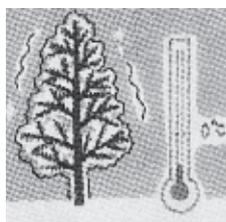
4 雪害

大量積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《ご相談・お申し込みは》

◆森林組合

◆森林組合連合会

福島県農林水産部森林整備課

☎ 024-521-7430

イワフジのプロセッサ

GP-35Vプロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を迫及したプロセッサ



Simple Processor
MODEL : GP-35V



- 高耐久性を迫及したフレームとトンク
- 大容量ソーモータの採用による優れた切断力
- カッタ押し付けはシンプルなスプリング式
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラブ作業
- 高速コンピュータ GP-7 による精度の高い安定した測尺
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク

ランニングコストに優れたシンプルプロセッサ

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・グラブリングシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・ラジキャリーシリーズ



イワフジ工業株式会社

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!
詳しくは当社ホームページをご覧ください www.iwafuji.co.jp

Yashima
豊かな緑を次代へ

自然との調和

私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。
皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生獣類から大切な 植樹木を守る

ツリーセーブ
ヤシマレント

盗みされ防止

ハチノックL(網隠し)
ハチノックS(携帯用)

大切な日本の松を守る ヤシマの林業薬剤

ヤシマスマイバイン乳剤
ヤシマスマイバインMC
グリーンガードエイト
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートSC
マツグリーン液剤2

くん蒸用生分解性シート

ちゅらシート(茶・白)
NCSシート(透明)
与作シート(茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリアバック使用)



ヤシマ産業株式会社

本社 〒104-0045 東京都中央区築地1丁目9-6 アロア築地ビル2F TEL.03-5565-3161(代) FAX.03-5565-3164
東北営業所 〒981-3133 仙台市泉区泉中央3-10-3-202 TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

排気量 **18.3cm³**

世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ



G2000T EZ-START
20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm³**

さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ



G4211EZ EZ-START
40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを
追求したハンドルと
思いのアクセルワークが
可能なトリガーレバー。



BC2711DW1-EZ
・防振ハンドルブラケット
・トリガーレバータイプ
チップソー ¥79,380(税込)
笹刈刃 ¥78,330(税込)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店
(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1